

6 令和6年度 多良中学校 校内研究計画

1 研究主題

「互いを尊重し主体的に学び続ける生徒の育成」

～集団づくりと授業改善を通して～

2 主題設定の理由

グローバル化や ICT の急速な進展により複雑で変化の激しい社会となった昨今、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となること」が生徒たちには期待され、学校教育においては、「様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力」いわゆる「生きる力」を生徒に育むことが求められている。新学習指導要領では、教育課程全般において育成すべき資質・能力の三つの柱として、ア. 生きて働く「知識・技能」イ. 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」ウ. 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」が示されている。これらの資質・能力を育成する上で、生徒の自ら学ぼうとする姿勢は大きな関わりをもつと考えられる。

本校では、生徒の「生きる力」を育成するために、「郷土を愛し、自ら学び、仲間とともに伸びる生徒の育成」を学校教育目標とし、「知（確かな学力）・徳（豊かな人間性）・体（たくましい心と体）」を育むことを目指している。目指す生徒像として「自ら学び、共に高め合う生徒」「心豊かで、社会性のある生徒」「心身ともに健康でたくましい生徒」を掲げている。これらを実現するための教育活動は多岐にわたるが、共通実践の一つとして、「生徒が主体的・対話的に学ぶ、分かる授業を推進し、学力向上（特に知識・技能の定着）を図る」ことを重点指導目標としている。

昨年度は、本校の研究主題を「自ら学ぼうとする生徒を育成するための工夫～知識・技能の定着と家庭学習の習慣化を図る取り組みを通して～」と設定した。「主体的に学ぶ場面の設定」「ふり返しによる概念的知識の定着」「知識・技能の定着に向けた効果的な指導法の探究」の3つの柱を意識した授業改善と「家庭学習の習慣化」を併せて行うことで、基礎学力が定着し、知識・技能を向上させることができ、自ら学びに向かう生徒を育成することができるであろう」という仮説を基に研究を進めてきた。結果として、「主体的に学ぶ場面の設定」や「知識・技能」の定着に向けた「前時の復習」「小テスト」は有効な手立てとなった。また、引き続き、「ふり返し」や「まとめ」を行う時間も確保することが必要である。昨年度の学習状況調査結果の課題として、「問題文や資料などから情報を正確に読み取らせ、根拠を明確にして自分の意見を述べさせたり、解答させたりする」力を伸ばすための手立ても必要であるが、この「思考・判断・表現」の力を伸ばすためにも、まずは「知識・技能」の定着を図る必要があると考えられる。

今後も、「学習のめあてを意識させ見通しをもって取り組ませる」こと、学習の過程で「生徒自身が粘り強く課題に取り組み、気づき、学びの工夫をするような手立てをとる」こと、「その授業で何を学んだかを生徒自身の言葉で振り返らせる」ことが重要になってくると考えられる。

また、生徒が主体的に学び続けるためには、互いに信頼し尊重し合う集団づくりが基盤となる。学習規律の定着と支持的風土づくりのための取り組みについて研究を進めることが必要となる。

そこで、本年度は、研究主題を「互いを尊重し主体的に学び続ける生徒の育成」と設定し、集団づくりや授業づくりを充実させ、生徒1人1人の生きる力となる資質・能力の育成をめざし、研究に取り組んでいきたい。

3 研究の目標

(1) 生徒が主体的に学ぼうとする授業づくり

授業においては、①生徒が身に着けた知識を活かし、思考の場を与え、主体的に学ぶ場面を設定する。②授業や単元の終末には「ふり返し」を行い、個別の知識を関連付けながら生徒自身の言葉で文章化させることで概念的知識として定着させる。③基礎学力の定着に向けた効果的な指導法を考える。この3つの柱で生徒の知識・技能の向上を図る。

(2) 互いを尊重する集団づくり

集団生活の基盤となる支持的風土の育成と、授業の基盤となる学習規律の確立・定着を目指す。

4 研究の仮説

3つの柱を意識した授業改善とよりよい集団づくりを併せて行うことで基礎学力が定着し、知識・技能を向上させることができ、主体的に学ぼうとする生徒を育成することができるであろう。

5 研究内容

(1) 生徒が身に着けた知識を活かし、主体的に学ぶ場面を設定する。

- ア 明確かつ生徒の主体的な活動を促す工夫した「めあて」を提示する。
- イ 生徒同士で教え合う、または意見交換により、考えを深めるなどの「学び合い活動」の時間を効果的に設定する。【グループ活動、ペア活動】
- ウ ICT を効果的に活用する。

(2) 授業や単元の終末には「ふり返し」を行い、個別の知識を関連付けながら生徒自身の言葉で文章化させることで概念的知識として定着させる。

- ア 毎時間もしくは単元ごとに「ふり返し」の時間を設定し、生徒の学力に応じた「まとめ」（例：空欄補充型のまとめ、板書中のキーワードを使ったまとめ、ノーヒントのまとめ、など）を生徒自身がを行い、一時間の授業で何を学んだかを明確化させる。「めあて」と整合性のとれた「まとめ」をさせる。

(3) 知識・技能の定着に向けた効果的な指導法を考える。

- ア 授業開始時に前時の学習を復習する。定期的・計画的な小テスト・単元テストを実施する。口頭での復習や、生徒同士で問題を出し合うなどの活動を伴う復習を実施する。
- イ e ライブラリを活用する。

【授業の流れ】

	生徒の活動	教師の支援
つかむ	①前時までの学習を復習する。	授業の始めに前時までの学習を復習する。小テスト・口頭での復習・パターンプラクティスなどで行う。可能な限り、本時の授業との関連性をもたせることで本時の学びにつなげる。
	②「めあて」を書き、本時の学習すべき内容とゴールを把握する。	生徒の学習意欲をかりたてるような「めあて」を設定。（～を比べてみよう、～を友達に説明しよう、など）
深める	③グループ活動、旅行学習などにより、考えを深める。	生徒が身につけた知識を活用し、主体的に学習できる場面を設定する。課題や「問」を設定し、協働により考えを深めさせる。
ふり返る	④「ふり返し」を書き、本時または本単元のふり返しを行う。	本時または本単元で学んだこと、感じたこと、疑問思ったことを書かせ、生徒の定着度を確認したり、次の授業で紹介したりするなどして活用する。

(4) 集団づくりに取り組む

- ア 学習規律の定着を図る。
- イ 朝・帰りの会における班活動や内容の充実を図る。
- ウ 支持的風土づくりを行う。
- エ 教室の学習環境整備を行う。
- オ 自己肯定感を高める活動に取り組む。

6 研究の方法

(1) 授業研究会による成果の検証

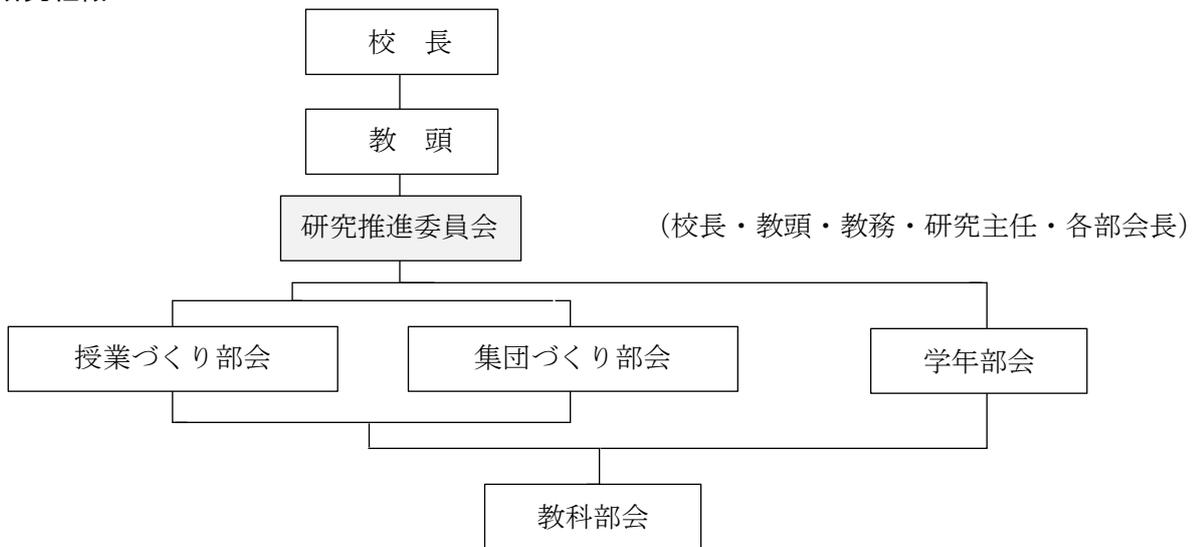
- ア 2学期に2回、授業研究会を行う。(数学1回、体育1回)
- イ 定期的に全体研究会や各部会を開き、研究の方向性を吟味する。
- ウ 県学習状況調査の比較・検証をする。

(2) 講師招聘および研究発表会への参加。

7 検証方法

- (1) 授業やアンケート調査における自己評価や学習成果をもとに、生徒の学習状況の変容を検証する。
- (2) 授業研究会を実施することで、研究仮説を検証する。

8 研究組織



各部会	研究内容
研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の骨格・基本的事項を立案し、全体研究会に提案する。 ・講師招聘，授業研究会の企画，運営を行う。
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に関する内容を協議する。 ・各部会の報告を受け、改善に向けて協議する。 ・各教科の連携を密にし、授業研究会を通して指導法等の研鑽を積む。
授業づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の定着を目指した研究授業の提案と授業研究会の準備を行う。 ・指導案様式を検討する。(研究授業の指導案検討を含む。) ・各教科の連携を図り、全職員で取り組む指導法についての共通理解を促す。
集団づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の定着を図る。 ・朝・帰りの会における班活動や内容の充実を図る。 ・支持的風土づくり。 ・教室の学習環境整備を行う。
学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握 (QU 分析) を行う。
教科部会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の立案・検討を行う。 ・研究授業における指導案を検討する。 ・各教科で情報を共有し、全職員で取り組む指導法を検討、実践する。 ・県学習状況調査の分析

9 校内研究部会メンバーと今後の取り組み

	メンバー	今後の取り組み
授業づくり部会	○中島こ、相坂、百武、森田、今福、江里口、下村、前田み	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能定着に向けた具体的取り組みを検討する。 ・効果的な学び合い活動の検討をする。 ・ふり返りシートの検討をする。 ・指導案の検討をする。
集団づくり部会	○前田ゆ、中橋、菰田、熊本、針茂、中野	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の定着を図る。 ・朝・帰りの会における班活動や内容の充実を図る。 ・支持的風土づくり。 ・教室の学習環境整備。

9 年間計画

	月 日	計画
第 1 回	5 月 1 日	校内研究計画案提案
第 2 回	6 月 1 2 日	各部会の活動内容、年間計画の検討
第 3 回	7 月 1 0 日	講師招聘による研修会「授業づくりについて」
第 4 回	8 月 6 日	教育課程の研修動画視聴 学習状況調査分析
第 5 回	8 月 2 8 日	講師招聘による研修会「指導と評価の一体化」
第 6 回	9 月 1 1 日	第 1 回校内研究授業および授業研究会(数学:江里口先生)
第 7 回	9 月 (未定)	第 2 回校内研究授業(体育:百武先生)
第 8 回	1 0 月 9 日	中間検討会
第 9 回	1 月 1 5 日	各部会のまとめ(成果と課題)
第 1 0 回	2 月 5 日	校内研究まとめと次年度に向けて

※校内研究授業前、必要に応じて指導案検討(校内研修)の時間を設定する。

※10月18日(金) 町教委訪問 全先生方 公開授業